

令和2年度 技術・家庭科 授業改善推進プラン

①現状・観点別分析

定期考査・授業アンケートの結果より、以下のように分析できる。

[技術分野]

□「ねらい・流れの提示」、「関心・意欲の向上」については、全学年で80%以上の肯定的な回答があった一方「振り返り」についての肯定的な回答は1年と3年で70%程度であった。「知識・技能の高まり」の肯定的な回答が1年で79%、「考えの深まり」が3年で70%程度であった。1年の定期考査の得点率が平均6割であり、知識・技能の習得が進んでいない。

[家庭分野]

□「振り返り」についての肯定的な回答は、全学年50%を下回った。また、「考えの深まり」についての肯定的な回答は1、3年で50%を下回った。一方、定期考査の得点率については、全学年で平均80%を上回った。観点別評価についても、ほとんどの項目で80%以上の生徒がA評価である。

②課題

[技術分野]

- 1、3年において、1学期の学習でカリキュラムの中で製作実習を行えず、考えを深める局面が不足したこともあり、授業アンケートの結果から、知識・技能の習得が不十分と感じる生徒が20%程度いる。また、1年では観点別評価「技能」の項目がCとなっている生徒が45%であり、技能の習得が十分に進んでいない。
- 3年では振り返りの項目が低い。限られた時数の中で、指導内容を絞って授業を進めているため、考えの深まりを感じる授業の構成や振り返りの工夫に課題がある。

[家庭分野]

□全学年で、知識の定着が見られるが、思考力、判断力の伸長に課題がある。特に1、2年の1学期では、昨年度に履修できなかった題材の学習が中心となり、知識を習得させる内容が多かった。そのため、主体的に学びに向かい、考えが深まる教材の提示や振り返りの工夫が必要である。

③具体的な改善策（「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善）

[技術分野]

- 実習を伴わない授業において、授業の展開や振り返りで、意図的に生徒同士の対話の場面を設定して授業を進めていく場面や、ICT機器での場面提示や実験などで技術的な法則を体験する場面を多くし、知識・技能の習得を図る。
- 製作実習については、対話的で深い学びになるために、設計の分野で自分の構想を言語化し、意見交流できるような場を設ける。製作は主体的になるように、興味・関心を得る題材を研究していく。

[家庭分野]

- 学習理解の効率化、関心・意欲の向上を狙って授業にICTを活用する。効率化を図った分、思考力を伸ばす時間を増やす。
- グループ学習による生徒同士の意見交換、発表などを通じて対話的な学びを深める。